

「日本の心の教育」

（境野 勝悟 著 致知出版社）

本書は、著者が岩手県花巻市の花巻東高校の全校生徒とその保護者の前で行った講演録です。

著者は大学で教育学を学ばれた後、神奈川県私立栄光学園の教員をしている時、縁があって、禅の修行を始められました。昭和四十八年には独立して、人の生きる道を学ぶ「道塾」を開き、六十歳まで青少年の心の教育に尽力されました。八十三歳になる現在も全国各地にて講演会を開催しておられます。

著者の思考の転機は、ドイツ人の校長先生との出会いにあります。校長先生が、ある卒業式に「今日は、諸君たちとお別れしなければならない。だから、さようならと言わなければならないが、さようならと言いたくない。なぜかという『さようなら』という意味がはっきりわからない。代わりに『グッド・バイ』という別れのことばを差し上げましょう。」と式辞をしました。当時新任の著者は、その後のパーティーで校長先生に「さようなら」の回答を求められ、明確に答えられず叱り飛ばされます。これが契機となり、著者は日本人の心の研究に打ち込むことになったのです。

本書のなかに出てくるキーワード

- ・「日本人」とは何か
- ・「日本」という国名になった由来
- ・国旗が「日の丸」になった理由
- ・「こんにちは」、「さようなら」という言葉の意味
- ・「お父さん」、「お母さん」という言葉の意味

本書を読み終え、「こんにちは」「さようなら」等、私たちが何気なく使用している言葉は、祖先から何代にも渡って語り継がれてきたものであり、日本人が本来大事にしてきた考え方を基にしているものだということが分かりました。

今を生きられることへの感謝を忘れずに、私たちから次の世代へ伝えていきたいことが、この本に詰まっています。